

令和元年度第1回摂津市公民館運営審議会要点録

日時：令和元年7月29日（月）午後1時30分から午後3時30分

場所：摂津市役所本館3階301会議室

出席委員 13名

事務局 9名

- 案件：
- (1) 委嘱状及び辞令交付
 - (2) 委員長及び副委員長の選出について
 - (3) 令和元年度公民館講座について
 - (4) 令和元年度公民館まつりについて
 - (5) 市立公民館バリアフリー化の検討について
 - (6) その他

(1) 委嘱状及び辞令交付

委員へ委嘱状及び辞令を交付

委嘱任命期間は令和元年7月1日から令和3年6月30日まで
教育長あいさつ

(2) 委員長、副委員長の選出について

委員長、副委員長を互選により選出する。

(3) 公民館講座について

各公民館職員より説明。

(質疑応答や各委員の意見等)

(委員) どの講座においても男性の参加率が少なくなっている。時間帯によっては、仕事を終えてからの参加になる。どのような取り組みをすればよいか、何回か協議を重ねた経験があった。それに基づいて、講座の参加人数を見させてもらった。

毎年、男性の参加人数が増えてきている。地域に根付いたアピールの仕方。公民館でされていると思うが、子どもから高齢の方々や、福祉に関しても、根付いていく良い試みではないかと感じている。

公民館が、居場所づくりということが反映してきたと感じた。

(委員長) 講座を通じて、居場所づくりにもなることは大切なことである。

講座をこなすだけでなく、どのような思いで参加しているかを思いながら、講座を展開していけたらよい。

(委員長) 新鳥飼公民館の自転車博士とクイズ大会は、有意義な講座だと思う。新学期が始まってからの休みが少しある時に、他の公民館でも実施

したらどうか。

(委員) 自転車講習会は3年生と4年生の子どもが、毎年5月～6月にお世話になっている。それでも、夏休みを挟んでしまうと元に戻ってしまう。夏休み明けなどで思い出すきっかけにもなるだろうから、繰り返しやっていくことが大切である。

(委員) 高齢者の方の交通安全会はないのだろうか。

(事務局) 地震と台風の関係で中止させていただいた。

(委員長) 高齢者の危険運転というのが多く見られる。安威川以南と安威川以北で場所を変えて開催していただければよいのではないかと思っている。

(事務局) 大きなニュースになっているので、そういったことも力を入れていければと考えているところである。

(委員) 地域ごとになるが、災害時で、そこが危ないといった内容のマップを作って、広報の方で1軒ずつ配布していただいたらありがたい。

今後の防災に関して、各家庭に保管用として持っていいけるようなものが必要である。

(事務局) 防災マップについては、本市の防災管財課で、年に1回、全戸配布をしている。

(委員) 学校や地域ではよく非難訓練を実施されているが、公民館と一般の方、高齢者の方との接点が少なくなっている。

1回だけでも公民館の人と訓練的な事をして、避難する部屋を教えていただいてももらえたらと思う。

(委員長) 案件(6)でその他の内容として提案していただけることになっている。

(委員長) 公民館で、子ども向けの映画会のようなものがあつたと思うのだが。人権映画会か。こちらの参加人数はどのくらいか。

(事務局) 参加人数は少ない。

(委員長) 子ども人権映画会タイトルかも。今年の3月「虹のきずな」「ひとりぼっちは嫌だよね～みんなでなくそういじめ～」。タイトルとしてはわかりやすいとおもう。

(事務局) 普段は目にしないタイトルは目が向かない。今後検討していかなければならぬこととは思う。

流行のものを上映するにも、著作権の関係も出てくるので難しい。

(委員) 「幼児・児童」「人権・福祉」の分野で関わらせていただいている。赤ちゃんの時の3か月の参加人数が低くなっているのがちょっと残念に思っている。

「平和」とつくど固いイメージがあるのか、広報に掲載されても参加人数が少ないことが気になる。

(委員) 子育て支援事業の方も子どもの参加人数が年を追うごとに減っている。タイトルの影響はあまり関係なく、子どもの絶対数が減っており、保育所に入所するものが低年齢化している。

(委員長) 10月から、幼稚園が無償化になったら、一段と参加者が減ることも考えられる。

(事務局) 確かに、なるべく多くの方に参加していただけないと、実施している意味がなくなってくる。

(4) 令和元年度公民館まつりについて事務局より説明

(委員長) 鳥飼東公民館と千里丘公民館に参加。千里丘公民館の土曜日は、展示のみであったが、小さいお子様連れの方には、ゆっくりできるスペースと時間があったので、良かったのではないかと思った。模擬店等があったら、人が混雑しているので、この形でも良かったのかも知れない。

(事務局) 模擬店と発表があると、会場がざわついていたという意見もいただいていた。

展示の作品をゆっくり落ち着いて見られるようになった。

今回、千里丘公民館では、似顔絵コーナーやマジックショーを行っていただいたり、展示がメインだが、無理のない範囲で実施ができればと考えている。

(委員) 来年も、似顔絵コーナーはやっていただくようお願いしようということになっている。実績が伴えばやろうということになると思う。似顔絵を描いてもらった方がにこにこして帰られる姿は良かった。

(5) 市立公民館バリアフリー化の検討について事務局より説明

(委員) コミュニティセンターのように指定管理が管理する建物になる方向か。

(事務局) 公民館機能をもたせて、多機能という形を考えている。

現状の味生公民館で説明すると、玄関が狭くなっており、エレベーターの件があり、トイレも多目的になっておらず、利用の便が悪いというのが、地元の方からも要望が出ている。

社会教育委員会議で審議しているのは、公民館のあり方で、どこをどのようにするという話はされていない。会議で一定の方向性が出されれば、公民館運営審議会でも報告をさせていただく。

- (委員) 味生公民館の近隣に住む住民の方々の合意があつての動きとなるのか。
- (事務局) 要望は出していただいているというだけである。
- (委員) 別府コミュニティセンターでは、コミュニティセンターの規格に沿う人たちと、公民館の規格に沿う人たちとで、2つに分かれている状態になった。ギクシャクしてしまったので、うまく進めていただきたい。
- (事務局) 市の方針が出るのは、来年度になる。建物の立て直しか、改築になるのか協議に入っていく。
- (委員長) エレベーターの設置だけであつたら、公民館機能とともに、公民館の名称も残ることですね。
- (事務局) それは残る。エレベーターを設置する間は危険と判断されるので、その間は閉鎖しなければいけないと思う。
- (委員長) 公民館の運営のまま、エレベーターが設置され、単純に便利になるかどうかまではわからない。しかし、建て替えとなると、違う問題が起こってくるということですね。
- (事務局) 住民の意見というのは、アンケート等を取っており、お聞きしているところである。今後、建て替えをするにしても、話が進んでいけばもう少し意見の方もお聞きしたいと思っている。
- (委員長) 利用される方が納得いくようにしていただきたい。
料金面やシステム面が出た時、建物が変わったら中味も変わったというようなご意見が出てこないようお願いする。
- (事務局) 味生公民館は、まだ生涯学習課の所管のため、仲介していくことになると思われる。
- (委員長) こちらでも報告をしていただきたいと思っている。
- (事務局) 了解しました。

(6) その他について事務局より説明

- (委員) 有事の時に、公民館や小学校であることはわかっている。小学校の方と活動しても、公民館は年齢層が幅広く、地域に根付いている。
可能であれば、年に1回でも地域の方々と訓練ができないか。そういう企画ができないものか。
- (事務局) 本市では防災管財課が担当している。地元自治会や校区をまとめて実施している。
また、公民館クラブ登録説明会の時に、消防の方を講師として、訓練等を行った。過去に講座としても行ったこともある。

(委員長) それだけ公民館に対する期待度があり、多様化されている証でもある。

(委員) 小さい子どもが参加するのが減っているという話だが、働いている人が多い。公民館等の講座について、1歳未満の方は一時保育ができないことが結構ある。一時保育ができないという状態になると参加ができない。参加者の全員が、親や近隣の誰かに預けられる人がいるわけでもないのだから少なくなるのではないかと思う。

高齢者の方で少し時間が空いている方がおられれば、公民館を使って、一緒に遊んだり、見守りをしてもらえることができればと感じている。

(事務局) 地域の高齢の方が公民館において、預け先の見つからない子供たちを見ていただければありがたいというご要望だと思う。現実問題として、資格がない方々が、他人のお子様の面倒をみるということは、難しいと思っている。

(委員) コミュニティプラザで防災アトラクションのイベントに参加した。同じ様なことを、公民館で地域にあった規模で実施するなど、来るきっかけになる一つの方法ではと思った。

3つの公民館まつりをまわったが、少しずつ簡略化してきているのではと感じた。全体の華になるようなものを考えられたらと思った。

(事務局) 公民館まつりの開催を担っているのは、地域の方々なので、負担になることを実施してまつり自体が終わってしまう可能性もあり得る。

その時代に合わせて継続していけることが大事になってくる。そのあたりの兼ね合いを考えながら実施していくことになると思われる。